

Ⅱ-1 「考える力」を育てる指導

先生、そう考えるといいんだ！

☆ 子どもの課題意識を高める。

- 考えたい課題や考える必要感のある課題を子どもが見つけるように、考えるきっかけとなる教材（事実やデータなど）提示の仕方を工夫します。

「ノートに好きな形の三角形ABCをかきましょう。次に、辺AB、辺ACのそれぞれ中点P、Qを結ぶ線分をかきましょう。自分の図をみてどんなことがいえそうですか。」

「PQとBCが平行になっています。」

「PQの長さがBCの半分になっています。」

「僕の図でも同じことがいえそうです。」

「私の図でも同じことがいえそうです。」

「みんながかいた三角形はそれぞれ違うのに、2つの共通なことがいえそうなんだね。でも、三角形は他にもたくさんかけるね。どうやって調べればいいのかね。」

・・・

「そう、証明だね。証明すれば、どんな図形の場合でも説明したことになるね。」

- 課題解決のために取り組む学習活動を明確にします。

<課題例>

- ・「北の空にある星の動きは、南の空の星の動きとどのように違うのか見付けよう。」 小4理科
- ・「三角形の中に平行線をひいた図形の辺の長さの関係を説明しよう。」 中3数学

☆ 子どもが自分の考えを表現する場を設定する。

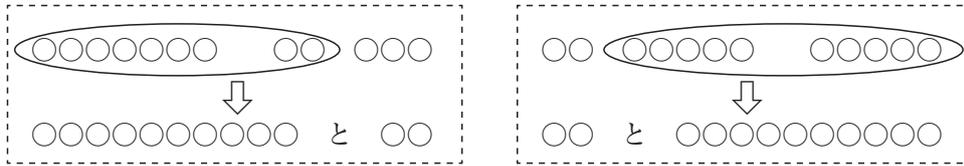
- ノートの使い方（何をどこに書くのか）を具体的に指導します。
<例> 最初の考えと交流後の考えの変容が分かるように記号などのルールを決めます。
- ヒントカード、教具などを個に応じて渡して助言します。
- 前時までの子どもの表現物を振り返るよう助言します。
- 今までに学習した方法が使えないか振り返るよう助言します。
<例> 「前の時間の図や表が使えないかな。」
- 自分の得意な方法で表現するよう助言します。

☆ 「考える力」を育成するための言語活動を充実する。

<例1> 比較

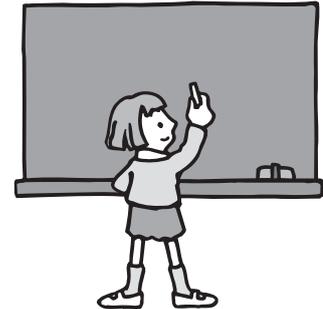
2つの事象を比較して異同を考える。

(小1・算数) 「7+5」の計算の仕方を具体物を使って表す活動



指導のポイント

- ・ どのように考えたのかが分かるように、数図ブロックなどを動かしながら話をする学習活動を設定します。加数分解と被加数分解の違いを認識するとともに、2つの方法とも10のまとまりをつくっているという共通点に気付くことができるように、数図ブロックなどの動きをよく見て比べるよう助言することが重要です。



<例2> 因果

事象間の原因—結果の関係を考える。

(中1・社会) 鎌倉幕府が元の襲来を撃退できた理由を資料を基に考え、カードに書き出して説明する活動

暴風雨

御家人の活躍

元軍の上陸を防ぐ石塁(防塁)

元軍の内紛

指導のポイント

- ・ 文献、絵図、統計などの資料の中から必要な資料を選択する場を設定します。資料からいくつかの理由を見付け出し様々な角度から考察できるように、資料を見る視点を示すことが重要です。

<例3> 条件

条件を変えることによって、2つの事象間の関係を発見する。

(中2・理科) コイルに磁石を出し入れた時のコイルに流れる電流の大きさを調べる実験を行ったことをレポートにまとめる活動

指導のポイント

- ・ 実験の条件を変えた時に、誘導電流がどのように変化したのかが分かるように、表などにまとめてレポートを作成するよう助言することが重要です。

「考える力」を育む言語活動の充実！

ただ言語活動を設定すればよいのではなく、付けたい力は何なのかを見極めていく必要があります。そして、各教科などの特性に応じて、自ら課題を見付け、追究していく過程に、言語活動を適切に位置付けていく必要があります。

わん！ポイント！

